

IV-31

住民意識からみた自主防災活動活性化について

秋田大学 学生会員 ○佐藤 陽介

秋田大学 正会員 木村 一裕

ウヌマ地域総研 正会員 藤田 勝

秋田大学 フェロー 清水浩志郎

1. はじめに

筆者らは昨年の研究¹⁾において、秋田市を事例に自主防災組織や町内会の実態を把握し、活発な組織の特徴を抽出し、自主防災活動活性化への方策の検討を行った。この研究では調査対象が町内会長であったため、活動主体となる地域住民の地域コミュニティに対する意識を把握することが課題となっていた。

そこで本研究では、自主防災活動や地域コミュニティに対する住民の考え方や参加意識を把握した上で、活動参加に積極的な住民の特徴を明らかにし、住民意識からみた自主防災活動活性化への方策を検討することを目的とし、調査・分析を行った。

2. 調査概要

自主防災活動、地域活動に対する住民の考え方や参加意識などを把握するためにアンケート調査を行った。調査対象として、秋田市で活発な自主防災活動を行っている「神田町内会」と「高梨台町内会」の全世帯とした。これらは昨年の研究でも「活発な活動を行っている組織」として、ヒアリング調査対象になっていた町内会である。

表-1 アンケート調査概要

調査対象	神田町内会	高梨台町内会
調査日	平成16年1月	
配布数	174	198
回収数	129	71
有効票数	120	70
回収率	69.0%	35.4%

表-2 特徴的な地域活動の事例

事例① 世代別に安全マップ作成	世代ごとに安全マップを作成するもので、愛知県春日井市の事例である。世代ごとに地域をチェックすることで単一世代では気がつかない点まで網羅できるのが特徴として挙げられる。
事例② 街角消火器・消火栓の設置	街角消火器の設置をするもので、茨城県柏野自主防災会の事例である。街角に消火器を設置することで、火災に対して迅速かつ臨機応変な対応ができることが特徴として挙げられる。実際に通行人が消火活動を行い部分焼けにおさえることができたという実績もあげている。
事例③ 女性が昼間の活動主体	女性がイニシアティブをとって防災活動をするもので、新潟県新発田市米倉小学校校区防災会の事例である。働きにでない女性が昼間の活動主体となり、女性ならではのアイデアを持って活動しているという特徴が挙げられる。
事例④ 子供を巻き込んだ活動	夜回り活動の長期実施を行うもので、鹿児島県の事例である。子供会の活動として行われていたものを町内会全体の活動として行うようになり、50年以上続けられていることが特徴として挙げられる。

高梨台は高台に位置し、高齢者が多い町内である。神田は平坦な土地にある住宅地で、中年層が多い町内である。調査内容は、各地で行われている特徴的な地域活動の中から特徴的な事例と思われるものを4つ選出し、事例①～④として提示、各事例に対する住民の評価を求めるといった形態をとった。ここで選出した事例を特徴的な地域活動として表-2として紹介する。主な質問項目とその結果を表-3に示した。

表-3 主な質問項目と集計結果

主な質問項目	神田町内会	高梨台町内会
1 年齢	「20代以下」0.8%、「30代」5.8%、「40代」32.5%、「50代」27.5%、「60代」14.2%、「70代以上」10.8%	「20代以下」2.9%、「30代」7.2%、「40代」14.5%、「50代」11.6%、「60代」31.9%、「70代以上」31.9%
2 性別	「男性」38.3%、「女性」14.2%	「男性」51.4%、「女性」47.1%
3 世帯構成	「65歳以上の夫婦世帯」15.0%、「65歳以上の単独世帯」5.0%、「65歳以上とその他の世帯」29.2%、「高齢者のいない世帯」45.0%	「65歳以上の夫婦世帯」30.0%、「65歳以上の単独世帯」15.7%、「65歳以上とその他の世帯」28.6%、「高齢者のいない世帯」25.7%
4 各事例に対する評価	事例①の総合評価「参考になる」35.0%、事例②の総合評価「参考になる」35.8%、事例③の総合評価「参考になる」29.2%、事例④の総合評価「参考になる」29.2%	事例①の総合評価「参考になる」22.9%、事例②の総合評価「参考になる」21.4%、事例③の総合評価「参考になる」18.6%、事例④の総合評価「参考になる」18.6%
5 地域コミュニティ活性化への意識	「地域よりも各世帯で心がけられたいと思う」13.3%、「必要だが難しいと思う」48.3%、「必要だと思う」29.2%	「地域よりも各世帯で心がけられたいと思う」14.3%、「必要だが難しいと思う」45.7%、「必要だと思う」37.1%

3. 事例評価と地域活動への参加状況

表-3で示したように、各活動の参加率は神田が高梨台に比べ高い水準を示しているのがわかる。しかし、地域コミュニティ活性化の意識については高梨台の方が高い水準を示している。図-1は各事例に対する総合評価が「参考になる」の割合を示したものである。全ての事例において、神田の割合が高くなっているが、事例④の評価は両町内会がほぼ同程度である。

図-2は地域コミュニティ活性化への意識と回答者の年齢をクロスさせたものである。「必要だと思う」に注目すると、神田は40代～70代以上のバランスがとれている。しかし、高梨台では70代以上への大きな偏りがみられる。70代以上の活動参加は体力的に厳しいものである。

ことが考えられ、このことが表-3に示した活動への参加状況に影響を与え、高梨台よりも神田の参加率が高くなっていることが考えられる。また別の分析で、地域コミュニティ活性化への意識が高くなるほど事例への評価がよく、現在行われている活動へも積極的に参加しているという傾向がみられた。

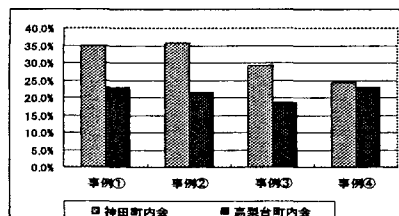


図-1 各事例への総合評価が「参考になる」の割合

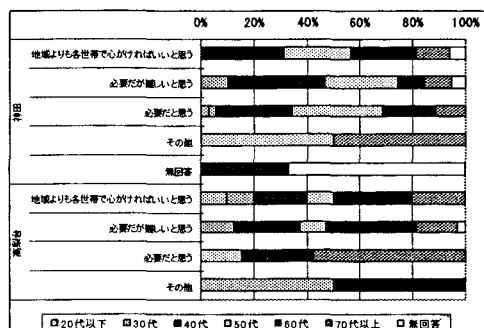


図-2 地域コミュニティ活性化への意識×回答者の年齢

4. 住民の類型化と特徴の抽出

このような自主防災活動への取り組み方について数量化Ⅲ類を用い特徴の抽出を試みた。使用したカテゴリは、高齢者や子供の有無などの世帯構成、年齢、各活動への参加状況、提示した事例と同様な活動の実施可能性である。図-3のカテゴリプロットにおいて、グループⅠ、Ⅱ、Ⅲを設定した。グループⅠは町内会活動や自主防災活動が多数付置し、「40～50代」、「地域コミュニティ活性化を必要だと思っている」が布置していることから、現在の活動主体となる住民の集合であることがわかる。グループⅡは「30代以下」、「子供がいる」が布置しており、若年層の集合であることがわかる。「活動実施の可能性」が布置しているが、今まで地域活動に関心を持っていなかったことが逆に事例への評価を高くし、「活動実施の可能性」の間に「できると思う」と答える結果につながったと考えられる。グループⅢは「60代以上」、「健康相談会」が布置していることから、高齢者の集合であることがわかる。よって、グループⅠの現在の活動主体に対し、グループⅢはかつての活動主体と考えられる。

図-3のカテゴリプロットにおいて、第一軸の負の位置と正の位置にそれぞれ、「60代以上」「30代以下」が布置していることから、世帯年齢に起因する軸と解釈した。第二軸の正の位置にグループⅡ、Ⅲが布置し、負の位置にグループⅠが布置していることから、現在の地域活動への参加度に起因する軸と解釈した。

表-4 数量化Ⅲ類の各数値

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	0.3725	14.16%	14.16%	0.6103
第2軸	0.2843	10.80%	24.96%	0.5332

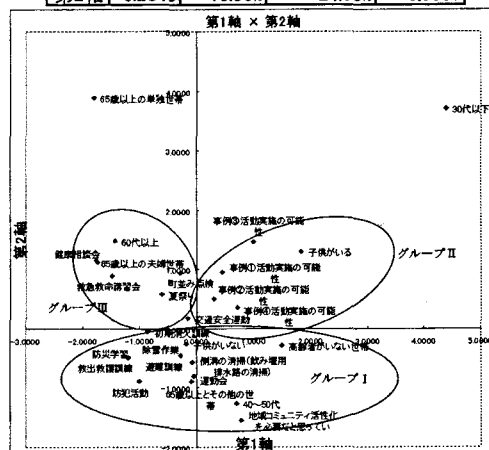


図-3 カテゴリプロット

5. おわりに

活動参加に積極的な住民の特徴として年齢が「40～50代」の中年層であり、地域コミュニティ活性化を必要だと思っていることがあげられた。また、活動活性化をばむ問題点の一つとして若年層の活動参加が挙げられるが、今回行った活動事例の提示などの情報提供が有効である可能性が、グループⅡの特徴から明らかになった。これは昨年までの研究で得られた結論と一致するものである。活動への参加を促すためには情報提供が有効であるという仮説を立てることができた。今後の課題として、「①住民サンプルの増加による仮説の裏付け」、「②情報提供後の活動の変化に関する調査」などが考えられる。

本研究を進めるにあたって多くの方のご協力を頂いた。アンケート調査にご協力頂いた高梨台町内会長芳谷輝雄氏、神田町内会長岸茂紀氏、ならびに各町内会のみなさまに感謝の意を表します。

《参考文献》

- 1) 藤田・清水・木村・佐藤「活発な自主防災活動と日常的な地域活動の関連性に関する研究—秋田市の状況から—」都市計画論文集 No38-3 pp19-24
- 2) 「消防防災博物館HP」 <http://www.bousaihaku.com/>
- 3) 「ふるさとづくりネットワークHP」 <http://www.ashita.or.jp/>